

## 令和2年度 学校評価の概要

### 1 学校評価の方法

中間評価（7月）と最終評価（12月）の2回、学校評価を行う。

学校評価委員会で評価項目と質問事項等を検討し、職員会議で職員に周知を図った後、アンケート用紙を職員に配付し、回答を集約・分析して達成度を自己評価した。また、具体的な課題・改善策等を記入する自由記述欄を設けた。

さらに、保護者アンケートを行い、職員による自己評価の参考とするとともに、「意見・要望」を記入する自由記述欄を設け保護者の意見・要望等を把握した。

### 2 学校評価の集計・分析方法

(1) 学校経営の努力点をもとに設定した各質問事項の達成度評価に、以下の配点をして平均点及び評価ごとの割合を算出した。なお平均点の算出に当たっては、質問事項ごとの有効回答者数で計算した（保護者も同様の方法で算出した。（ ）内は保護者の評価観点。

<input type="radio"/> 十分達成できている（十分実践されている。十分当てはまる。）	… 4点
<input type="radio"/> おおむね達成できている（おおむね実践されている。ほぼ当てはまる。）	… 3点
<input type="radio"/> やや不十分である（あまり実践されていない。あまり当てはまらない。）	… 2点
<input type="radio"/> 不十分である（実践されていない。当てはまらない。）	… 1点

(2) 自己評価・保護者アンケートの自由記述欄への記入事項を集約し、評価の参考とした。

(3) 年度末に最終の学校評価を行い、今年度の最終評価、中間評価との比較及び次年度に向けての課題を検討する。

### 3 学校評価の結果から（別紙「集計結果」等参照）

(1) アンケートの回収率は以下のとおりである。

職員	中間	100%（44人中44人）
	最終	100%（44人中44人）

保護者	中間	72%（50人中36人）
	最終	82%（50人中41人）

(2) 保護者アンケートの平均点は、全ての項目において3点以上と全体的に高い評価をいただいた。特に、『9 学校と家庭が連携し、子どもの目標達成のために取り組んでいる』『14 子どもの成長を感じる』の項目は、「十分達成できている」「おおむね達成できている」の割合が100%と高い評価をいただいた。家庭と連携した取組が児童生徒の成長や目標達成につながっていると考えられる。

(3) 保護者アンケート（最終評価）において『6 子どもの実態や課題に応じた授業』『13 子どもは毎日楽しく登校している』は「やや不十分」「不十分」の割合が10%以上だった。自由記述欄には、「特性に合わせた支援」「手話やタブレットを活用した学習の工夫、表現方法の習得」を要望する記述があった。

(4) 職員による自己評価で、最終評価の平均点が0.2以上上昇した項目として、『7 二次調理室の安全な運用と、アレルギーや誤嚥等に留意した丁寧な摂食指導』、『16 機能的な「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成と活用』、『22 相手校と連携した居住地校交流を含む交流及び共同学習の実施』、『24 HPや学校参観、なかよう公開等の実施を通じた教育実践の成果の発信』であった。

(5) 職員による自己評価で、最終評価の平均点が0.1以上下降した項目は、『2 業務効率化の改善や工夫』、『3 児童生徒の人権の尊重を念頭においた、児童生徒理解と適切な指導・支援』『6 感染症予防に対する意識の向上と感染症予防の取組』『12 学習におけるICT機器の効果的な活用』であった。

(6) ほとんどの項目で中間・最終の平均点は上がる傾向にあった。多くの項目で、中間評価を受けた取組が有効であったと評価できる。また、それと同時に、保護者の評価も高い傾向にあることから、学校の取組が、保護者に周知され、よい評価につながったと考えられる。しかし、保護者、職員共に、自由記述の中には、改善の必要のある項目があることから、課題と改善策などをもとに検証し、今後の取組に反映していく必要があると考える。